

第2回苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日時 平成25年10月30日(水) 13:30～15:30

2 場所 本庁舎4階会議室

3 出席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

川島会長、鈴木副会長、秋山委員、市古委員、鹿毛委員、小玉委員、坂本委員、佐藤委員、谷本委員、伴辺委員、林委員、三澤委員、矢野委員

(2) 事務局(市)

福原産業経済部長、片原産業経済部次長、池田商業観光課長、桜田工業労政課長、都築工業労政課主査、銅商業観光課主査、畑山商業観光課主査、大津工業労政課主事、吉田商業観光課主事

4 概要

(1) 開会

審議会規則に基づき、委員13名が出席していることから第2回中小企業振興審議会が成立していることを報告し開会。

(2) 事務局紹介

事務局より、10月1日人事異動に伴い、事務局職員が替わったことを報告。併せて、第2回中小企業振興審議会も市民参加条例に基づいてホームページで結果を公表することを報告。

(3) 議事

①中小企業振興シンポジウムについて(資料1)

事務局より、平成25年8月24日に行われた中小企業振興シンポジウムの報告と条例周知用リーフレット2種作成と配布について説明。

②胆振管内の中小企業経済現況

北海道中小企業団体中央会より、「日銀の地域経済報告や政府の月例経済報告によると、全国的に経済状況は緩やかに回復しつつある。北洋銀行の道内企業経営動向調査等によると、北海道の経済状況は年内はこの好調が維持されるのではないかと。また、胆振管内では帝国データバンク苫小牧支店の景気動向指数において全道に比べて増となっている。しかし、燃料費や資材価格の高騰により売り上げ増のわりに利益に結びついていない。また消費税増税の一時的な需要見込みの可能性もあり、来年4月以降の先行きが不透明。景気がいいという話は聞きながらも実際の景況回復の実感には乏しい」という内容の報告があった。

③中小企業振興審議会の進め方（資料2）

中小企業振興審議会の進め方について、一つ目に情報の共有化。二つ目に中小企業活性化に有効な手段を模索しテーマ策定。三つ目に施策の基本方針に基づく審議。四つ目に各主体で何ができるか。このような流れで審議会の議論を進めていき、必要に応じて部会等を設置し、より細かな情報の収集及び分析を行っていく内容を説明。

④中小企業振興に係るアンケートについて（資料3）

アンケート内容又は補足説明等について各委員から説明

委員・・・アベノミクスの効果が一部大企業に現れているようだが、我々中小企業にとっては原料高、人件費高とマイナス要因が多く、逆に苦しくなっている。実際には我々中小企業はあまり良くない。不安材料が多く先が見えない。新しい試みを地域で作り上げていき、中小零細企業や地域、市等すべてに対して一体となって企画していくことが必要であり、とても大切ではないかと思う。D I も景気も上がってきているが、実体がないから、我々一般庶民はお金を使いたくても使えないというのが、現状ではないか。

委員・・・東部に大手スーパーを中心とする商業施設が集積している。それに伴い中心部や西地区では閉店、撤退等が相次いで、地域の商業コミュニティが成り立たない状況になっている。中心部においても、買い物難民が現れている状況になっている。こういう中で、昨年9月に商店街活性化条例というのができた。しかし、これには罰則がなく拘束力もない。どういう形で、市民や大型店に協力をしていただくことができるかが、重要な課題になっている。今年の12月1日から市商連の参加店に限り1万円で、1万2千円分の買い物ができるプレミアム商品券を発売する。条例に伴う罰則がないので、加盟店に優遇措置をどういう形で作り出していくか。また、いかにして市民還元していくか、ということを中心に今回発売していく。商店街の活性化は個々のお店がそこで商売できる状況でなければ、活性化にならない。中心部においても10数件の空き店舗があり、5～6箇所くらいの空き地がある。こういう状況の中、いかに中小企業振興条例の中で我々自身がどういう形で再生を目指していくかが、非常に大切な課題になってくる。

委員・・・新聞等での景況感を聞いている限りでは、上半期は、若干上向きを感じる傾向があった。しかし、今後については、電力不足や消費税の駆け込み需要による反動減等、非常に厳しい景況感を予想している。これは苫小牧のエリアに限らずというのが実感。そういった中で、どうやって仕事を増やしていくべきか。一つは、いかに地元や道内の中小企業と連携を組み、付加価値を上げて、大手ユーザーに取り入れることができるか。もう一つは、道内・地元の産品を道外や海外に紹介していくことができるか。そういった中で、一つ感じているのは、同じ業界の中でも、異業種間でも、連携が

取れていない、情報の共有化が取れていないことが、我々として解決していかなければいけない課題。景況感に左右されない体制づくりと、北海道の産品をいかに外に出していくか、実現していくかというのが課題。

委員 … 経営指導する立場の機関ということで、業種を全般的に見ていると、この景気に先行き不透明感があると思う。それは事業者の頭にもあると同時に、消費者の頭にもある。そうすると、消費者もやはり財布の紐が固くなる。マスコミで報じられているとおり、マンションの売買が進んだり、建設の仕事が入ったりということで一時的に忙しい。しかし、エコカー減税や地デジテレビの販売等と同じ現象で、消費税増税による駆け込み需要が終わってしまうと、市場が引いてしまうのではないか。中小企業相談所では、立地企業がきたら地場の建設土木を使うよう要望しているが、一つの工場の中で専門的な分野ということになってくると、傘下にある企業を使う方が非常に使いやすいということが、ミスマッチとして出てきている。中小企業相談所でも人を育てる実務講座等を行っているが、大きな工場の中でオールマイティに動けるエンジニアをすぐ育てられるかということ、それは難しく、地道な努力しかないと感じている。最近特に感じるのは後継者の問題がある。今の60代70代は非常に元気だが、実際、社長に何かあったときに、バトンタッチする方がいるのか。先日道から報告があり、前回の事業者統計調査から今回の統計調査で小規模事業者が300件くらい減っていた。やはり後継者問題があるのではないかと考えている。事業者の後継者問題や創業者フォローについて一つのテーマで考えたらどうか。

委員 … 中小企業の振興に関する部分で利用する側が感じるであろうという切り口で意見を述べている。ぼんやりと今の状況を良くしたいという程度に悩みを抱えている人がかなり多いはず。例えば施策はあるが、それをどう活かせるか分からない人がかなり多いと思う。置かれている状況の何を改善すればどうなるのか。それに気づくための機会の提供すべきではないか。そういったことを学ぶ場を多く提供、それも敷居の低い形で提供していくべきではないかと感じている。

委員 … 小売業のおかれている状況は、百貨店がかなり厳しくなり、次にゼネラルマーチャンダイジングストア、(イトーヨーカドーのようなスタイル)そしてショッピングゾーンがかなり厳しくなった。ショッピングスーパーも厳しさの波がきている。スーパーの商圈設定は大体2キロ圏を第一次商圈として捉えているが、現状ではコンビニエンスストアが2キロ圏で捉えると5店舗ほどある。コンビニエンスストアが一日に約30万くらい売るとなると、そのうち重複するチルド商品等が、大体20万円ぐらいの売上げが被っている。小売業を取り巻く環境というのは非常に厳しい。小売業は回りに居住者等がいないと活性化していかない。そう考えると西部地区にい

かに住民を増やしていくかが重要。西部地区は今後高齢化がさらに進んでいくと思うが、そういう中で何か課題として取り組めばどうか。

委員 … 車が運転できない状況になった時に買い物はどうなるのか考える。生きていく上で自分が10年後20年後にどういう生活をするのかを、今の40代くらいが考えて、自分たちの20年先の姿を描きながら暮らしていくことも必要。今の私たちの生活を見て30年後の世の中をどう考えるか、どういうものがあればいいか考えてそれを事業化していくようなことを望んでいる。

委員 … 経済状況について先ほど話したが、これだけ見ると景気のいい国だなという実感しかない。ただ現実はかなり厳しいもの。景気がいいなら設備投資をすれば良いと思うが、次どうなるか分からないということで二の足を踏んでしまう、という話は多々聞く。建設業は景気がいい話をしたが、現実には室蘭や洞爺方面にも札幌の業者が来ている状況で、地元優先にはなっていないのが現状。中小企業団体中央会では廃業調査をやっており、その調査によると廃業率がとても高い。要因としては後継者がいない等。そういった環境が悪循環を生んでいる。中央会では、直接事業に関与することはできないが、後継者の育成や上手く事業承継できるような手法、あるいは各業界の悩みについては研修会等で支援はできる。

委員 … 最近、本屋や資材屋、風呂屋などの閉店が相次いでいる。子供たちは本を買うところが無いと騒いでいる。食料品は本来必要なものだが、ゴミ有料化により捨てる時のことを考えて買う。全体が景気のいい話をしているが、消費者としては先のことを考えて慎重に買い物をするようになっている。中小企業を取り巻く環境の話をしたときに、「資金面で借りやすい状況にしないと」という話が出る。これから西部地区は高齢化する。東部地区はどんどん若い人が行き、賑やかで活性化していく。西部地区はこれでもいいのかと思う。10年後どうするのかを考えて買い物に行くべき。

委員 … 私は以前会社をやっていた。今は市民目線の立場。現役の時には見えなかったことが見えてくる。そういう立場で話したい。中小企業が活性化することは即、市の財政に繋がる。こちらからの仕掛けを行政も待つのではなく、産業振興に関してもっと積極的に行政も取り組んでほしい。以前は西部地区が主体で発展するだろうと言われた時期もあった。今は東部には小さい子供がとても多い。いずれは満杯になり、また西部にくるのではないかと淡い話もある。地域を含めて活性化をしていくために、これからも意見は出していきたいと思っている。

委員 … 主婦の立場として買い物難民の話は真っ只中。車も廃車にして足も無くな

った。重たい物は持てないので宅配で洗剤とか大きいものは配達してもらおうが、生鮮食品は目で見て買いたい。近所に一軒だけ昔からあるお店が頑張ってくれて、小さなものでも配達してくれる。お年寄りはそのお店に頼っている状況。少し高くてもやはり近所からお店を無くしたくないという気持ちでそこに通っている。今年商店街でスタンプラリーを開催していた。知らないお店がたくさんあり、色々な店を知った。駅前の百縁商店街のイベントもあり、ものすごい賑やかだった。苫小牧にもこんなに人がいたんだなど。普段歩いててもすれ違う人もいないが、あの時は賑わっている。こんなお店がある、少し覗いてみようかと何軒か覗いてみた。空き店舗を利用したアンテナショップがあればもっといいと思う。それと財布の紐が固いというのは私達の年代の話の聞くと、4月から上がる税金のことや電気料金の値上げ、年金が段々先細っていく等の不安がある。そういう話が結構周りで聞こえてきている。

委員・・・ 買い物難民やインターネットの話が出ていたが、10年ほど前の話で将来は全部ネットでできるという話だった。パソコンの前に座ればなんでもモノが手に入るという。しかし、お金があって買いたいものが好きに買えるならいいが、結局わずかな家計費の中で選ぶことになり、ウィンドウショッピングもできない。買い物をする人の心理からすると、全部ネットで買ってくださいとなったらストレスが溜まる。例えば、経営者が給料を渡して、労働者が安いと思うか高いと思うかは、経営者と労働者がお互いに感謝できるかどうか。ネット時代に人の温かみをどうやって持っていくかが、商売にしても色々な情報化にしても必要ではないか。

景況感の問題については、新聞等、マスコミその他は対前年比やリーマンショックを越えた等よく聞くが、本当に儲かってきた、良くなってるっていうのはほんの数パーセントしかない。力強い経営、先に見える経営が中小企業者ではなかなかできない。客先に出向いて仕事をする業種であれば技術者の養成しかない。人材を育成し、使えるようになり稼いでくれるようになるのに3年、一流になるのに10年くらいかかる。その間は投資。景気がいい時代は人材育成ができる。ところが景気が悪くなると育成する余裕がないので、即戦力しか雇えない。一人の人間に3年間投資する。10人いたら何百万、何千万となるが3年先には花が咲く。しかし、そういう経営戦略が中小企業ではなかなかできない。その辺の問題がある。2年かけてこの審議会は5、6回の予定だが、回数を増やすべき。審議会は意見を吸い上げて大きな方向性を出す会。個々の具体的なことについては小グループを作ってそこで検討していく。もっとフレキシブルに議論できる場を作らないと話は前に進んでいかないと思う。部会とかワーキンググループでもいいが、形にとらわれず。審議会はあくまでもそれを吸収する場。こういう部会からこういう問題点がありましたけどどうですかという場であれば良い。

会長 …… 中小企業の関係者にお願いしたいのは、やはり学生のこと。地元就職したいというニーズが非常にある。そういう雇用の場をどんどん作っていきけるようお願いしていくことが、非常に大切であり、期待しているところ。また、大学が地域と連携が取れるかというところもこれから大事になってくる。大学も企業の皆様とタイアップできる形で参加し、その中から色々な社会体験を積みかせてもらい、地元というものに対して愛着をもってもらう。というような形で教育を進めていきたいと考えている。まちが賑やかになるという点は、若者やみんなが集い、その中から色々な意味の活性化の行動が出てくるのではないかと期待している。この中小企業の振興の中で若者の雇用というところも是非いろんな形で議論していきたい。

質 疑

▽委員 …… 商店の方にお伺いしたい。商店街に行っても車を停めるところが十分ないので、その辺も含めた活性化を考えてほしい。

◆委員 …… 駐車場が無いというのはお店の前に無いということで、徒歩1・2分のところには駐車場がある。しかし、その辺については商業者ともう一度きちんとどういう形で消費者、市民の方にもっと快適に使っていただけるかという事を考えていかなければならないことだと思う。

▽委員 …… 消費者というか市民の立場で、買い物難民の話も含めてどんどん意見を出していくべき。個別のお客さんからいかに1円でも100円でもお金をいただけるかというのが地元の中小企業にとっては勝負。だからもっとどんどん意見を出していただきたい。

▽委員 …… できるだけ近くで買い、地元の小さな商店を大切にしたい。

⑤テーマについて（資料3）

アンケートの回答について資料3でまとめている。テーマ設定という形で、色々検討して行きたい。

- ・人材の育成と地元雇用について
- ・同業・異業を問わず中小企業者間の連携の促進について
- ・ビジネスマッチングのためのニーズの調査について
- ・創業促進・事業承継について

本日の委員の意見やアンケート内容を踏まえながらこれからテーマ検討していきたい。今すぐにテーマを決めるのは難しいと思っている。この辺のところを今後色々議論を重ねて行きたいと思っている。

事務局 …… 事務局よりテクノセンターと道央産業振興財団の事業内容等を紹介。併せて、買い物難民の話についても、市の商業観光課でどのように支援できるか検討

を進めていることを説明。

会 長 …… 今後中心となっていくテーマの設定について、会長一任していただきたい。

—異議なし—

会 長 …… 次回の審議会の前に委員に事務局からテーマと関連する資料を送る。色々な意見等を準備し、次回の審議会を進めていきたい。

(4) その他

委 員 …… 苫小牧市のまちづくり、将来的なビジョンがはっきり見えない。10年後15年後20年後にはどんなまちを作っていくのか。このまちに住んでいて、これからの高齢社会に対して安心することができない。いつのまにか我々市民が置き去りにになっている。一体となって動いていくようなことがとても必要。

委 員 …… 資料を事前に配付してほしい。

事務局 …… 事務局より次回の審議会は2月に開催し、資料についても早くに送付する。

(5) 閉会